

【研究基盤協議会 オールジャパン人材育成事業 オンラインセミナー】

技術者倫理の導入としての科学論

～「曖昧さ」に立ち向かうための技術として～

日時：2026年9月14日（月）13:00～14:30

■ 概要

本セミナーでは、「科学とは何か」をめぐる科学論の議論を紹介します。その上で、「エビデンスとは何か」「因果関係をどう捉えるか」といった実務に直結する問題について深く考えていきます。

特に農学やフィールドワークの現場は、厳密にコントロールされた実験室とは異なります。「操作」から「結果」が出るまでのスパンが長く、気象などの自然環境から強い影響を受けるため、因果関係の特定が非常に難しいという特有の課題を抱えています。

このような「曖昧さの大きな分野」において、過去の因習や、すでに効果が否定された前例踏襲の技術を疑わずに継続していませんか？その判断は本当に「科学的」と言えるでしょうか？

本セミナーでは、科学哲学・科学社会学における「科学と非科学の線引き問題」の動向を紹介した上で、「エビデンス」をめぐる議論を事例に因果関係の問題に迫ります。単なるルール遵守の倫理にとどまらず、「科学的な姿勢とは何か」「何が非科学なのか」を本質的に理解し、日々の業務支援をより高い質へと引き上げるための「技術者倫理」を身につける第一歩となる内容です。

大学や研究機関において、より主体的に、強い科学的意志を持って業務を支えたい技術職員の皆様のご参加をお待ちしております。

■ 本セミナーのポイント

- 科学哲学の視点から「科学と非科学の線引き」「エビデンス」の本質を理解する

- 前例踏襲や因習に流されない、確固たる「技術者としての倫理観」の初歩としての「科学的」とはどういう意味かを知る

■ 開催概要

セミナー名	技術者倫理の導入としての科学論 ～「曖昧さ」に立ち向かうための技術として～
日時	2026 年 9 月 14 日（月） 13:00 ～ 14:30
講師	松村 一志 先生（大阪大学 大学院人間科学研究科 准教授）
対象	全国の大学、高等専門学校および大学共同利用機関法人などに所属する技術職員 ※研究基盤協議会に加入していない機関の方も参加できます。 ※特に農学、フィールド系の職員を意図して企画していますが、他分野の方にも有益な内容ですので参加を歓迎します。
配信形式	Zoom によるオンライン配信
参加費	無料

■ 講師紹介

松村 一志（まつむら・かずし） 先生 | 大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授

【略歴・専門】

1988 年東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。

成城大学文芸学部准教授を経て、2025 年より大阪大学大学院人間科学研究科准教授。専門は社会学・科学論。

現代社会における「データと社会の関係史」や「科学と非科学の境界線の形成」、「エビデンスをめぐる言説の系譜」などを主な研究関心とし、専門知と不信のメカニズムを鋭く分析している。

【主な著書】

・『エビデンスの社会学——証言の消滅と真理の現在』（青土社）

・『科学否定論はなぜ人をひきつけるのか——地球平面説から反ワクチンまで』（ちくま新書）※セミナー実行委員おすすめ！

・『無知学への招待——〈知らないこと〉を問い直す』（共著、明石書店）

■ お申し込み方法

以下の登録 URL にアクセスのうえ、必要事項をご入力いただき事前登録をお願いいたします。登録後、オンライン参加のための情報が送付されます。

【参加登録 URL】

<https://us02web.zoom.us/meeting/register/-VKOXt-mT-yIfOMChhyvwQ>

【お問い合わせ・事務局】

研究基盤協議会 オールジャパン人材育成事業実行委員会

E-mail: m-watanabe@jcore2023.jp （担当理事：渡邊政典）

セミナー担当委員

E-mail: fumitaka@agr.nagoya-u.ac.jp （担当：吉村文孝@名古屋大学）